教育委員会会議の概要（令和６年１１月定例会）

◆ 日　　時　令和６年１１月１９日（火）午前９時００分から午前１０時１０分まで

◆ 場　　所　教育局　第１会議室

◆ 出　席　者

教　育　長	天 野　　元	出席
委員・教育長職務代理者	花 渕　　浩 司	出席
委　　員	山 田　　理 恵	出席
委　　員	庄 司　　弘 美	出席
委　　員	長谷川　真里	出席
委　　員	永 富　　良 一	出席
委　　員	松野　大二郎	出席

◆ 会議の概要

１　開　　会

２　議事録の承認　　９月定例会　10 月定例会

３　議事録署名委員の指名　　長　谷　川　　委　員

４　報　告　事　項

（１）仙台市学校給食施設基本方針（中間案）について

（健康教育課長　説明）

資料に基づき報告

松　野　委　員　昨年度、仙台市ＰＴＡ協議会主催のＰＴＡフェスティバルの中で「パネルでどうぞ」というオンライン展示コーナーがあった。その中で、「ありがとうを伝えたい人」という内容があり、単独調理校の学校で、給食室のお手伝いをしてくださっている方たちにありがとうを伝えたいという意見や作っている人の顔が見えることで安心感を覚えるという意見が子どもたちから多くあった。今後、人的な配置の問題などで親子方式に移行する学校も出てくるかと思う。ただ、近隣校で親子方式になるにしても、作っている人とのつながりを児童生徒が確認することができたらよいという思いがあったので、１つ提案させていただく。

健康教育課長　単独調理校の場合、子どもたちと給食室の調理員や栄養士が関わり合うといった側面もある。

今回、単独調理校から親子方式などへの移行に際し、学校訪問や、ＩＣＴの活用による親校の栄養士から子校の児童生徒への食に関する講話などを行い、可能な限り食に関しての興味関心が保たれるように取組の充実を図ってまいりたい。

永　富　委　員　単独調理校老朽化の問題や人的な不足もあり、親子方式などに移行していくとの説明があったが、移行にあたっての基準があるのか、あるいはケース・バイ・ケースなのか。

健康教育課長　別紙２の本編の 13 ページの「基本方針」の下に、「仙台市立小・中学校の一定規模確保に向けた基本方針」に定める学校として必要な一定規模の基準の記載がある。小学校だと 12 学級以上、概ね１学年２クラス以上であり、中学校だと９学級以上と定められている。これを参考としながら将来的な児童生徒数の増減見込みなども踏まえ、判断を個別に行っていく。

松　野　委　員　この移行というのはどのようなスケジュールで行われるのか。また、給食室は、室温が40度近くあり、とても暑く、エアコンもないし、窓も開けられないところで調理されている。移行することについて、いつぐらいにある程度の方向性を示すことができるのか。

健康教育課長　令和７年４月に基本方針を正式に策定し、その後に、対象となる学校について、親子方式での提供に向け、学校、保護者、地域の方への説明を開始するということで考えている。現段階で具体的にどこの学校かというものは持ち合わせていないが、まずは地域や保護者の方への説明などを行い、必要な手続を段階的に踏んでいくことを想定している。実際に親子方式に切り替わってスタートするのには概ね３年程度を要すると考えている。

山　田　委　員　親子方式という場合、小学校同士または中学校同士なのか。小・中学校が近くにあるところもあると思うので、そこで親子方式は取れないのか伺う。

健康教育課長　実際に、生出小学校と生出中学校が親子方式を行っており、生出小学校で調理したものを生出中学校に提供している。秋保地区の場合だと秋保小学校で調理したものを湯元小学校に提供している事例もある。校種を小学校同士あるいは中学校同士といった形で限定することは特段想定していないので、距離的な部分などを踏まえて総合的に判断してきたい。

（２）文部科学省「令和５年度　児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」の結果について

（教育相談課長　説明）

資料に基づき報告

花　渕　委　員　暴力行為に関して、小学校でなぜこんなに多くなったのか。教育相談課の現時点での分析を教えていただきたい。

教育相談課長　全てではないが、実際に件数が増えた報告を受けている学校にどういった状況かを確認しており、特定の児童生徒が複数回の暴力行為を繰り返しているケースがあるということも１つと考えられる。また、どの学年もそういった行為が見られ、全体的に増えている学校もある。さらに、学年別に見てみると、小学校はやはり１～３年生あたりが多くなっており、低学年の件数が顕著に増えているというところがある。

　また、いじめの認知の中に、軽く叩かれるといったものも暴力行為に含まれているというところも、件数が多くなっている要因である。

　コロナ禍以前も暴力件数は増えていたが、コロナ禍により少し減少した。コロナの５類移行に伴い、人間関係の構築が普通にできるようになってきたことから件数が増えたという見方もしている。

永　富　委　員　いじめ・暴力行為・不登校の全てで未然防止という言葉が出てくるが、この未然防止に関してのノウハウや方針などについて、学校でどのようなことが共有されているのか教えていただきたい。

教育相談課長　児童生徒に対しては道徳教育などで、人を思いやる気持ちを高めていく取組をしている。教職員に対しては、職責や職位に応じた研修の中で、無自覚ないじめあるいはいじめが起こったときの対応などを取り上げている状況である。

永　富　委　員　いじめ対策ハンドブック等にも書いてあるが、例えばこのいじめ認知件数の中で、無自覚ないじめがどれぐらいの割合かということについて何か情報はあるか。

教育相談課長　無自覚ないじめについては、本人の自覚がないので、相手の気持ちがどうだったのかによっていじめの認知としてカウントされる。特に小学校１～３年生ぐらいには、やり取りの中で無自覚ないじめが多いという状況が見られている。先ほどの報告にもあったが、学年が上がるにつれて、少しずつコミュニケーション能力や対人との関わり方を学んでいくことから件数が少しずつ減っていく状況は見られている。

松　野　委　員　低学年の児童において、何故こんなにいじめ認知件数が多くなったのかと思ったが、私の子どもの例で捉えてみると、学校でいじめアンケートを行う際に、低学年の頃は、何か書かなければいけないという意識がとても強かった。書いた後に、子どもに聞くと、もう解決したからいいんだけど何か書かなくてはいけないと思ったから回答したと言っていたのを思い出した。

高学年になるに従って、コミュニケーション能力など、自分たちで解決する力は少なからず生まれていると思うので、アンケートの文言について、例えば低学年用、高学年用など、少し変化を加えてもいいと思う。

教育相談課長　アンケートの質問は、小学校と中学校である程度変えてはいるが、さらに小学校の中でも低学年向け、高学年向けのような配慮ができないか、今後検討していきたい。

５　付　議　事　項

第 25 号議案　市議会の議決を経るべき事案に係る市長への意見の申出について

（１）仙台市学校条例の一部を改正する条例

（学事課長　説明）

資料に基づき説明

原案のとおり決定

（２）工事請負契約の締結に関する件（仙台市立広瀬小学校校舎等長寿命化改修工事）

（学校施設課長　説明）

資料に基づき説明

原案のとおり決定

第 26 号議案　仙台市文化財保護審議会委員の委嘱等について

（文化財課長　説明）

資料に基づき説明

原案のとおり決定

第 27 号議案　仙台市図書館協議会委員の委嘱等について

（市民図書館長　説明）

資料に基づき説明

原案のとおり決定

第 28 号議案　臨時代理に関する件について（職員の人事に関する事項について）

（人事課長　説明）

資料に基づき説明

原案のとおり決定

６　閉　　会